

■業務の概要

●業務の目的

若者の地元定着やUターン就職を促進するため、対象者の属性や考え方、道内での就職に向けた条件、対象者への効果的なアプローチの方法などを把握すること。

●実施・掲載内容

■市内企業へのヒアリング調査

市内に本社を置く企業5社に若者の応募・採用の実態等をヒアリング。

■大学卒業予定者に対するアンケート調査

市内大学の卒業予定者に対するインターネットアンケート調査。回収サンプル数795件

■大学卒業予定者へのグループインタビュー調査

短大・大学生、修士2年生に対するグループインタビュー。33名の参加にて実施。就職希望・予定地、就職にあたっての条件などについてインタビューを行った。

※本概要版には掲載していないが、他に、先進事例調査、若者の雇用、移住・定住促進施策の提案も実施。

■市内企業へのヒアリング調査 結果概要

Q 現在の若者の就職に関する意識について

- 「価値観が多様化しているように感じる」
- 「現在は待遇や福利厚生、残業の有無、安定性を重視する人が多くなってきた」
- 「土日祝日に休めるかどうか、残業はあるのかなど、プライベートとの兼ね合いを重視している」
- 「転職があるかどうかを重視しているように感じている」
- 「以前、学生は業種・仕事を絞って就職活動をしていたが、最近は関連のない業種にまたがって行っている。勤務地、給与、休みなど、ライフスタイルに関わる点を重視しているようだ」
- …仕事そのものよりもライフスタイルを重視している学生が多い。

Q 若者の募集・採用における企業の課題

- 「中小企業は企業情報までたどり着いてもらえないという課題がある」
- 「札幌の中小企業・IT企業は社名が知られていない。まず社名を認知してもらうことが課題」
- …まずは企業を知ってもらう取組が求められている。

Q 今後、若者の募集・採用において必要だと考えていること

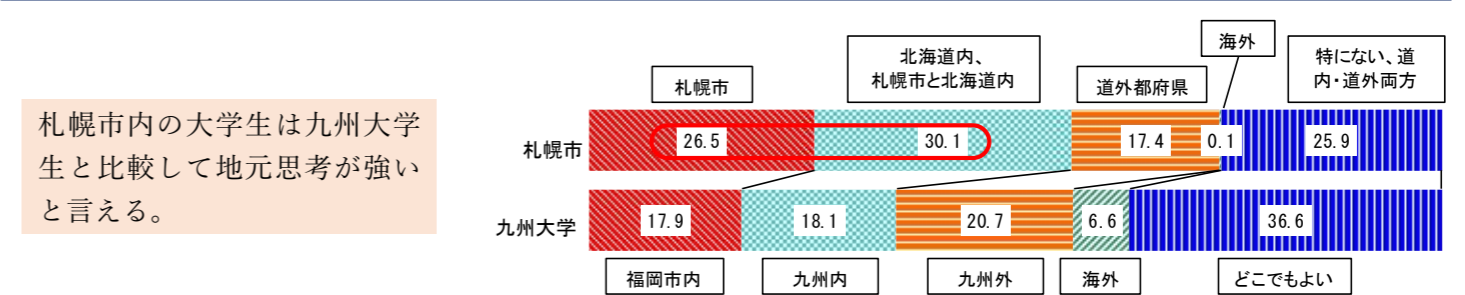
- 「インターンシップを受け入れる企業も増えてきているが、長期間のインターンシップは何社も受けられるものではない。もっと気楽な職場見学などがあっても良いのではないか」
- 「直接、コミュニケーションを取る、会って話す時間を増やすしかないと考えている」

Q 道内企業への若者の応募・就職促進のために大学・行政等に求めること

- 「平日頃から企業と学生がコミュニケーションを取れる機会を設けてほしい」
- 「業界・地域を絞った説明会があれば良い。そうすれば業界に関心のある学生を集められ、中小企業にもスポットが当たる」
- 「大学と中小企業が組んだ『お祭り』的な『出会い』のイベントがあっても良い」
- 「民間企業と行政がうまく役割分担して『職業のリアリティ』を学生に伝える取組を行えないだろうか」
- …多様に企業と学生が出会う・触れ合うことで、学生が仕事・社会人のリアルを知ることができる取組が求められている。

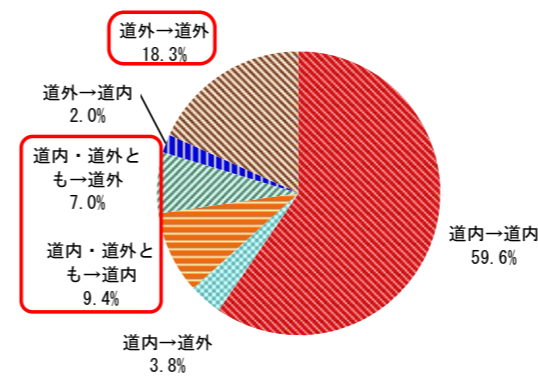
■大学卒業予定者に対するアンケート調査 結果概要

Q 就職活動開始前に就職を希望していた地域（九州大学調査との比較）



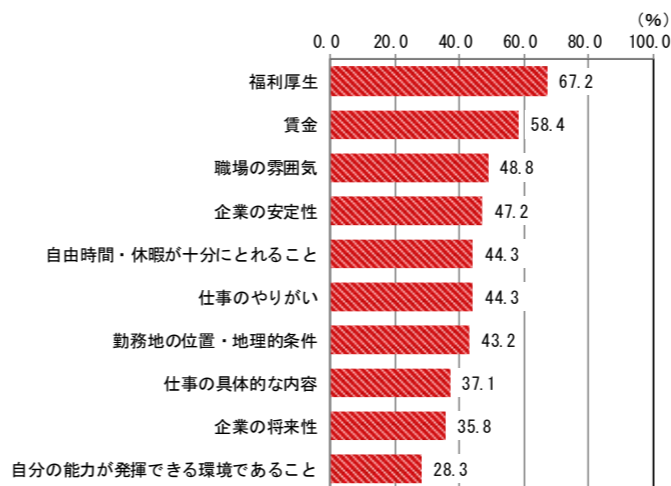
Q 就職希望地域→就職決定地域の推移

取組の主ターゲットとすべきは「道外就職を希望→道外に流出」する人と、「道内・道外とも希望→道外に流出」する人である。



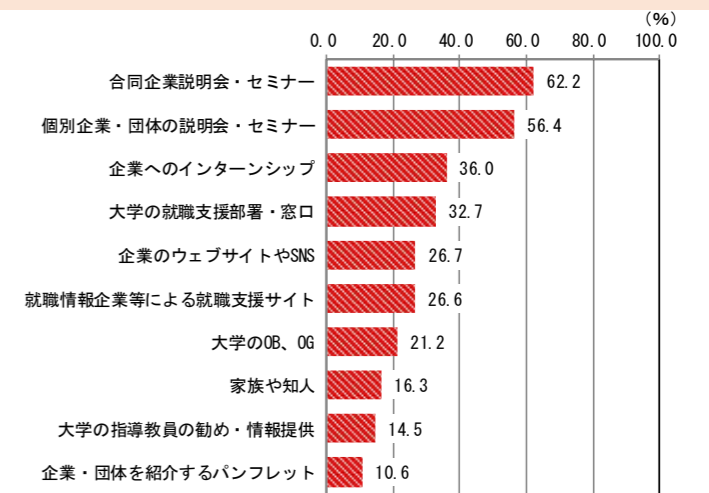
Q 就職先について重要だと考えること

特に「職場の雰囲気」が3番目に挙げられていることが注目される。



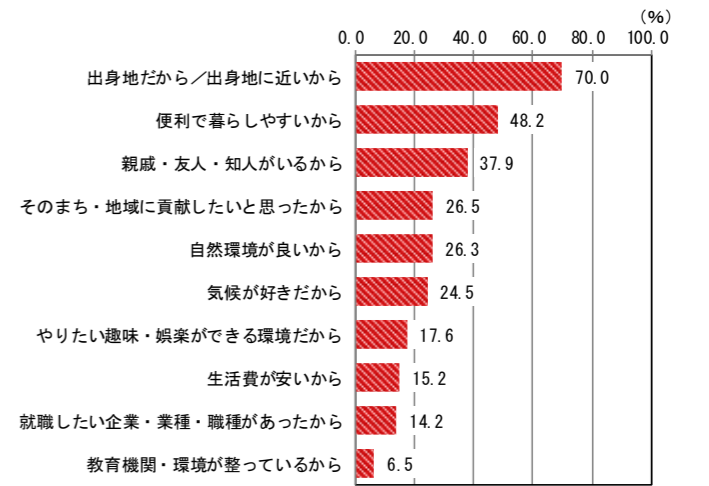
Q 就職活動先を決める際に参考にしたメディア

特に「企業へのインターンシップ」が3番目に挙げられていることが注目される。



Q 北海道内での就職を希望していた理由

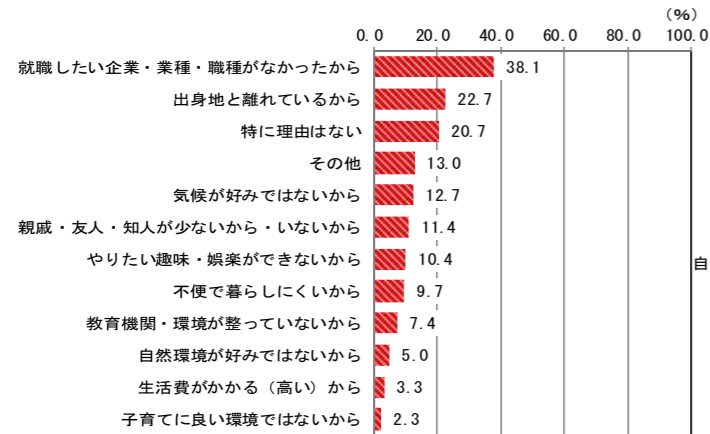
「出身地だから/出身地に近いから」「便利で暮らしやすいから」「親戚・友人・知人がいるから」が多く挙げられている。



■大学卒業予定者に対するアンケート調査 結果概要 (続き)

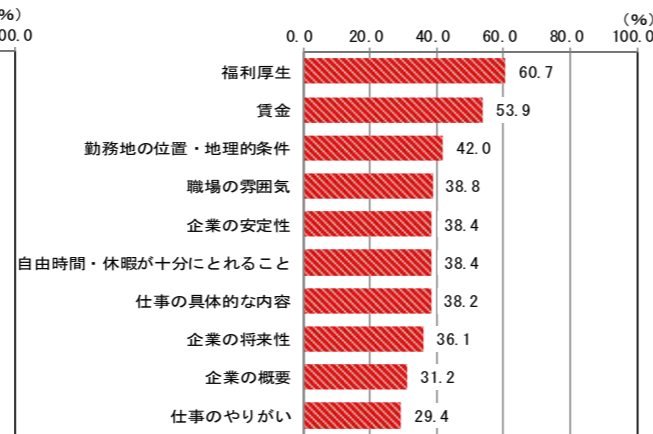
Q 北海道内での就職を希望しなかった理由

「就職したい企業・業種・職種がなかったから」「出身地と離れているから」が特に多く挙げられた。



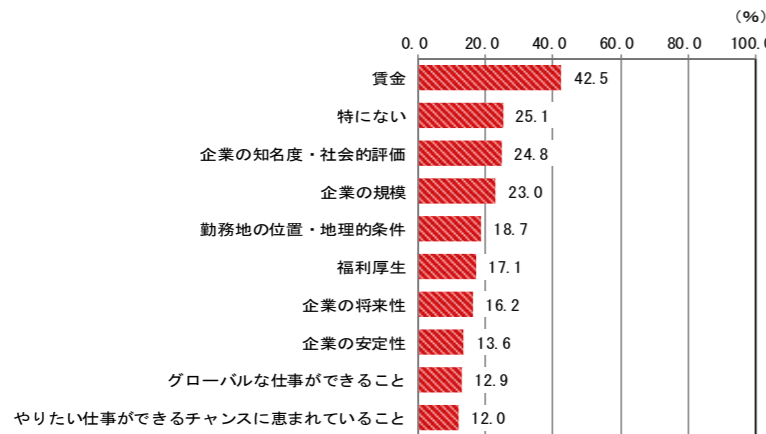
Q 道内企業について知りたかった情報

特に「職場の雰囲気」「仕事の具体的な内容」が多く挙げられたことが注目される。



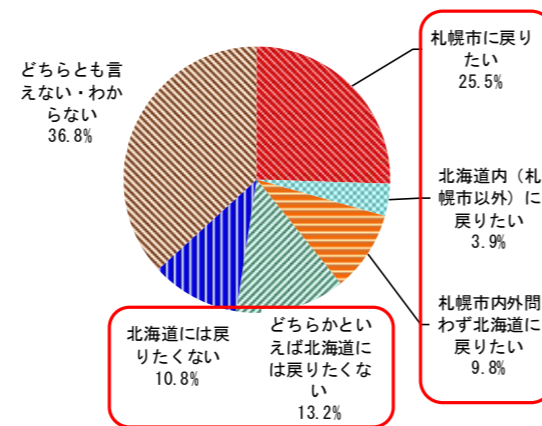
Q 道内企業が道外企業より劣っていると思った点

「賃金」が最も多く挙げられた一方「特にない」との回答も多かった。



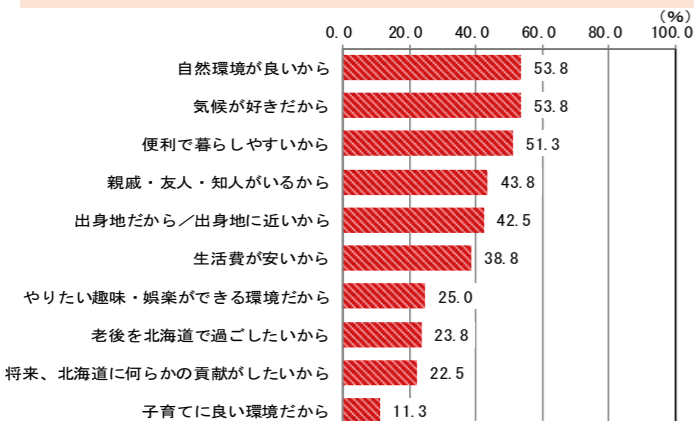
Q 札幌市・北海道へのUターン意向

道外就職決定者でも「札幌市・北海道に戻りたい」人が「戻りたくない」人よりも多い。



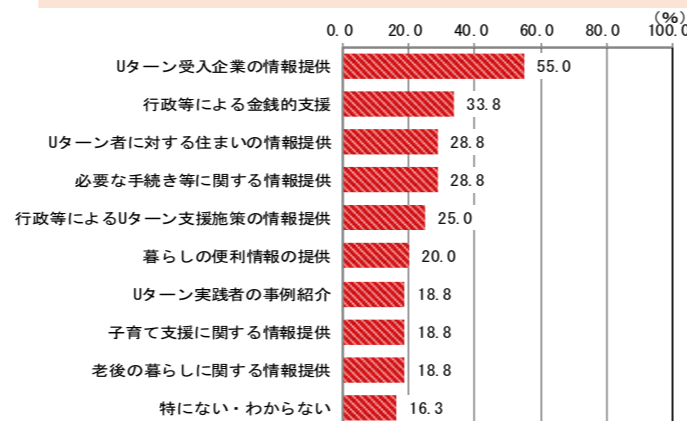
Q Uターン希望者が市内・道内にUターンしたい理

「自然環境が良いから」「気候が好きだから」「便利で暮らしやすいから」を半数以上が挙げた。



Q Uターンするために求める取組

移住・Uターン転職を受け入れる企業の情報提供を半数以上が挙げた。



■大学卒業予定者へのグループインタビュー調査 結果概要

Q 企業の情報は何で知られると良いか?

○「社員と直接会って話をしたかった」との声が多く聞かれた。

Q 就職先の企業に出会ったきっかけは?決めた理由は?

○道外就職者は、就職活動を開始する前の比較的早い段階から企業・業種を絞り込んでいる。「仕事のやりがい」や「仕事内容、企業の製品・サービスに魅力を感じた」という意見が目立った。
○道内民間企業就職者は実際に企業・社員と接してその雰囲気を知ることにより、就職先を選んでいる。仕事そのものよりも職場の「環境」や「待遇」に関する意見が目立って出されている。

Q 就職先の地域を決めた理由は?

○道外就職者は、地域ではなく仕事内容や企業で選んでいる人が多い。
○道内就職者は、住み心地の良さ、慣れ親しんだ生活環境・気候等を挙げた。

Q 就職先(企業・地域)の希望がかなわなかった点

○道内就職者からは「仕事環境・内容、勤務地が不明であることが不満である」との声が出された。

Q 企業について最も知りたかった/知りたい情報は?

○仕事環境の「雰囲気」と、実際の「仕事内容」について多く挙げられた。これらについて「社員と触れ合うことで聞きたい」という要望も出されている。

Q 市内の中小企業は採用のために何をすべきか

○「学生と直接会う機会を増やす」ための取組アイデアが多数出された。「学生と泥臭く会って話すことが効果的」ではないかという指摘もされている。

Q 札幌市が若者の地元定着・Uターン就職促進のためにすべきこと

○学生と道内企業との接点を生む・増やす取組に関する意見が多数出された。

■調査結果を踏まえて

- 札幌市内の大学に通う若者の札幌市・道内への就職・定住志向は比較的強い。
- 若者に地元地域にある業種・企業について認知してもらうことが必要である。そのためには、実際に企業が学生と接する能動的な取組が必要。
- 道外への就職希望者の市内・道内定着のためには、就職活動開始前の早い段階から市内・道内の業種・企業に興味を持ってもらう取組が有効。
- 学生は企業の選考等において、企業の社員から得る、実際の仕事内容、職場の環境・雰囲気、これらを踏まえて社会人としてどのようなライフスタイルを送ることができるのかといった情報を重視し、欲している。
- 上記を踏まえると、インターンシップ・プログラムが有効。学生のニーズに合わせて多様な日数・度合いのプログラムを設けることが有効。
- また、社会人のライフスタイルを知るためには、インターンシップよりも気軽に社会人や企業と接することができるプログラムが有効。

報告書本編にて、企業による多種多様なインターンシップ・プログラムの紹介・マッチング等を行う「さっぽろインターンシップ見本市」をご提案